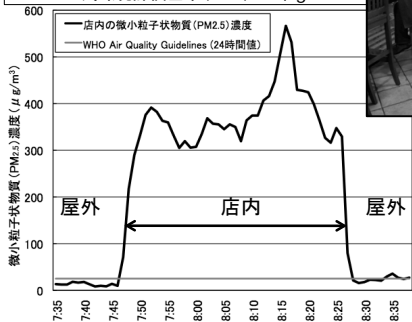


資料4: サービス産業の受動喫煙
喫茶店の微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の
・平均濃度で 371 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
・最高値は 566 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
WHO 空気環境評価基準 (24h): 25 $\mu\text{g}/\text{m}^3$



サービス産業での問題点

透明パネル+換気扇で喫煙席を分離した喫茶店
不適切: 従業員の受動喫煙は防止できない
不公平: 小規模店舗では実施できない

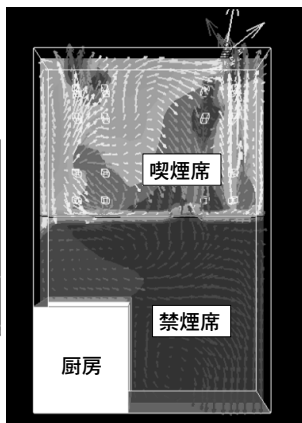
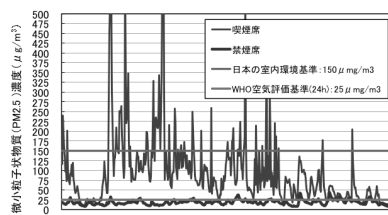
パネルより
手前は禁煙
奥が喫煙



不経済: 換気扇
4台で強力排気
=年間 2万 kWh

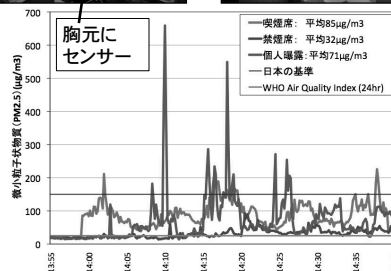


パネルと換気扇で分離しても、
喫煙区域で働く従業員の受動喫煙
を防止することは出来ない

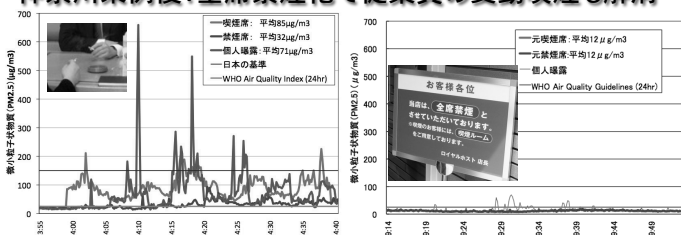


天井から見おろした時の空気の流れ
とタバコ煙の分布。

神奈川条例前: レストランの利用者も従業員も受動喫煙



神奈川条例後: 全席禁煙化で従業員の受動喫煙も解消



改装前後の同じ場所
と従業員の個人曝露
を再測定



飲食店も従業員にとっては職場:

発がん性が明らかなタバコ煙が充滿する危険な環境で働く人々を
受動喫煙の被害から保護するために、防じん防毒マスクを着用させる
のは非現実的。
諸外国のように飲食店も含めた受動喫煙防止法を!

